壁をくぐれば

高知工科大学　工学部　社会システム工学科
1080448　小谷 優海

設計の原点

現在、まちを構成する様々な要素は、道や道路に対して平面的にわかりやすく整列されている。人はそこで平面的なファサードの変化を体験するのみである。

しかし、ただきれいに整列するのではなく、もっと様々な空間が混じり合うことで魅力的な空間はできないだろうか。

敷地

高知県高知市はりまや町の一画を敷地とした。この敷地は高知の中心にありながら、取り残されたかのように静かで、閑散としている。使われていない建物も多くあり、活気は感じられない。

しかし、周辺には電車通りやはりまや橋商店街、東はりまや通りなどがあり、大手筋や帯屋町にもほど近い。このような現況から、この敷地がこれから高知の中心地として発展し、きっかけとなって周りに影響を与える可能性を充分に持っていると考え、敷地とした。

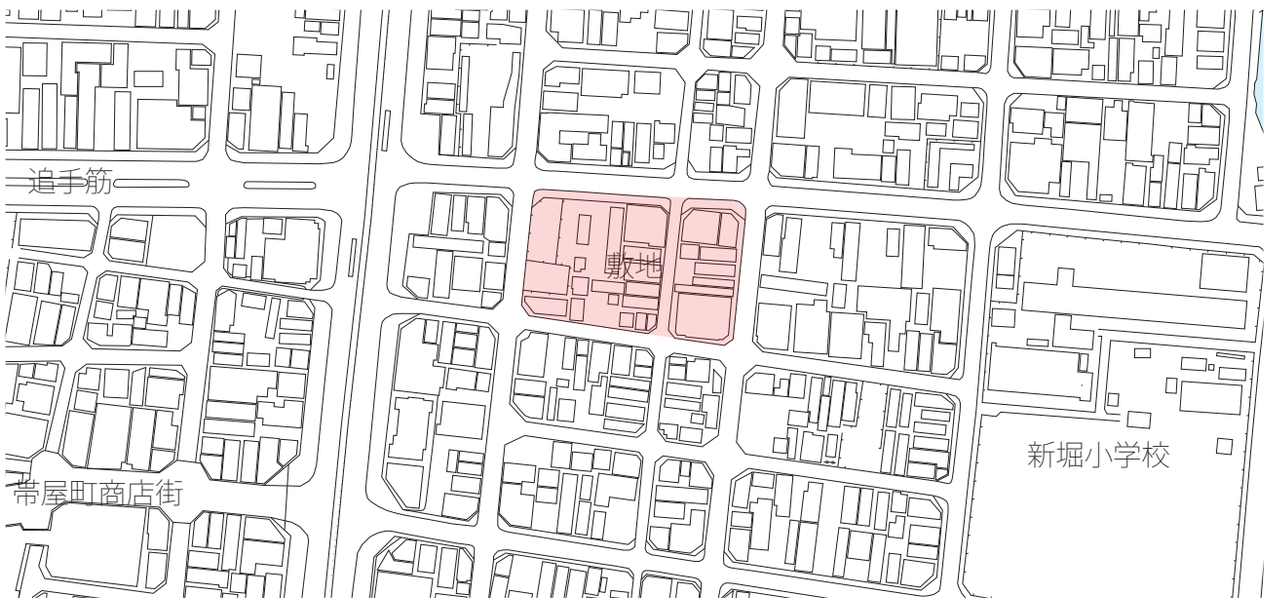
コンセプト

歩き進んで行くごとに場面が移り変わっていくような空間を作りたいと考えた。

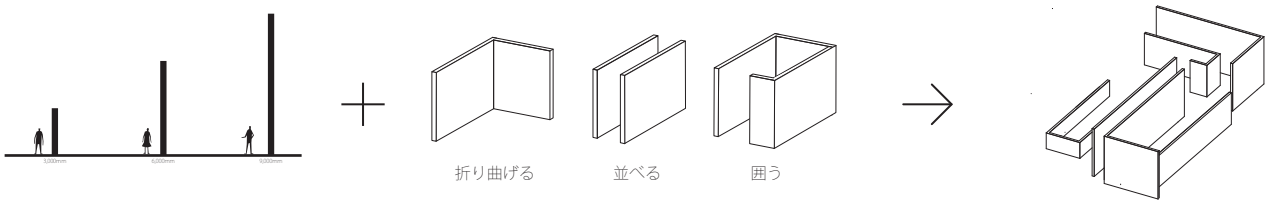
本計画では、高さの違う壁をランダムに配置し、さまざまな用途を持つボリュームがその壁にくっついている。この構成を組み合わせて多様な空間を作り出す。様々なレベル・場所にあるそれらの用途がそれぞれの場面を作り出し、その空間を連続させたり、分断したり、対比させたり、繋げたりすることで、場面が変化する。一歩進むごとに全く違う場面が展開するような空間をめざした。

壁を一枚ぬけると賑わいのある広場に出たり、壁に沿って歩いていき、ふと上を見ると人が暮らしていたり、足下には働いている人が見える。もう一つ壁をぬけると暗く静かな路地にたどりつく。

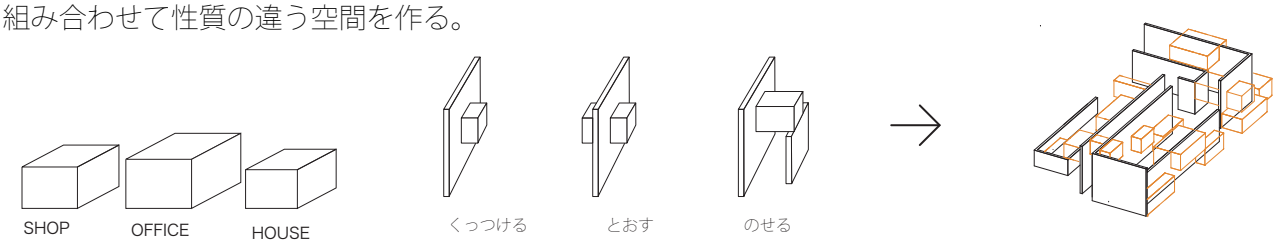
人々はそこで起こる場面や出来事、空気の変化を感じながら、壁の間を歩き回り、くぐっていく。壁の向こう側には新たな場面が広がる。



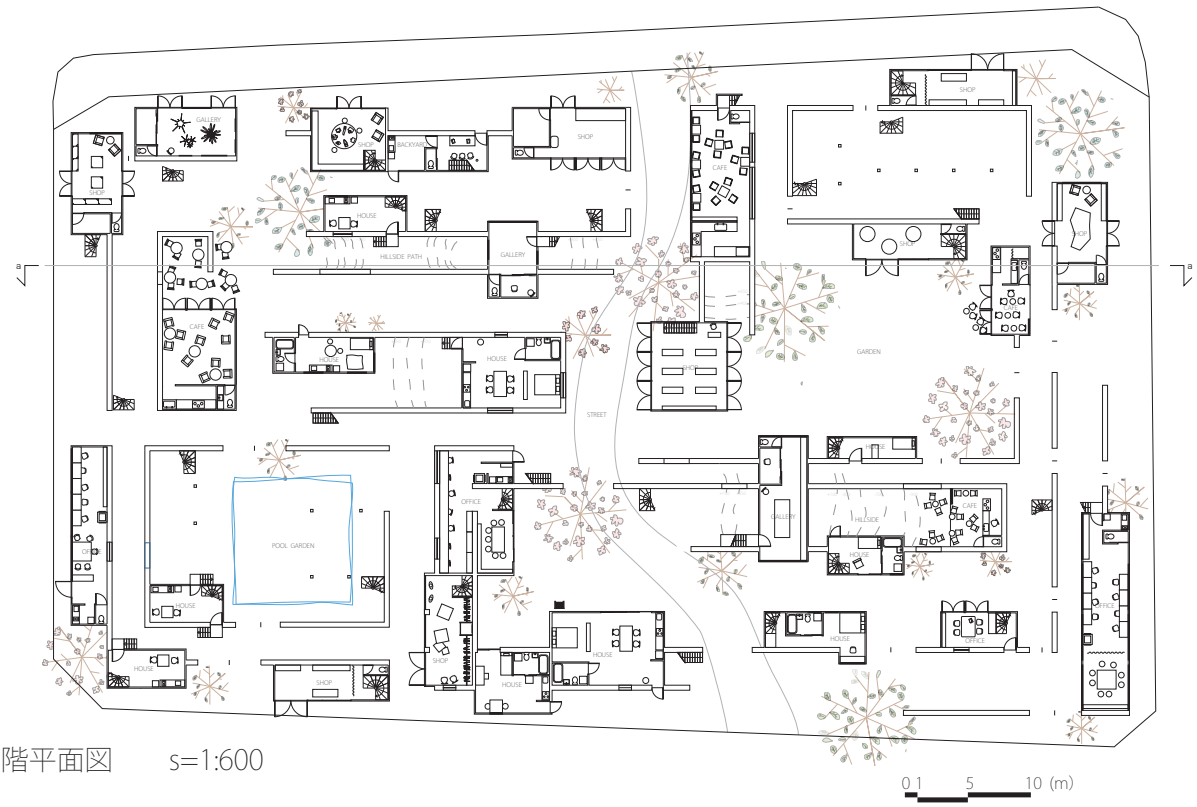
設計手法



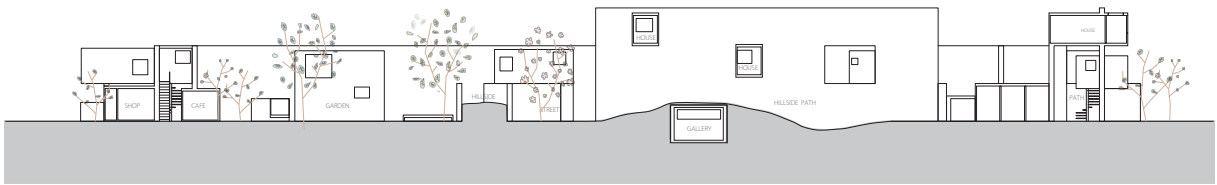
3,000mm・6,000mm・9,000mm の高さの違う壁に曲げる・挟む・囲う等の操作を行い、これを組み合わせて性質の違う空間を作る。



違う用途のボリュームを壁にくっつける・とおす・のせる等の操作を行い、用途を混在させる。
それにより、多様な場面が見える。



1 階平面図　　s=1:600



a-a 断面図　　s=1：600